山行報告書

京都田辺山友会　　報告者　守口　実

山　名	御在所岳	山行名	例会・夏山トレーニング③
ルート	中道登山口―中道―御在所岳―国見岳―国見尾根―藤内小屋―裏道―裏道登山口		
山行日	7 月 20 日	天　候	曇り/晴
参加者	リーダー：　守口　　サブリーダー：若林 男性：19 名　山下、中田、赤松、津田、小川、坪田、梅沢、秋月、上田昌、峰岡、遊佐、村上、三宅、山口、坂部、樋口、園上 女性：　7 名　玉井、伊藤、上杉、河野、上田美、長野、大林、 合計：26 名		

ルート概略図

省略

コースタイム

地名		時：分	地名		時：分
中道登山口	集	8：25	国見岳	着	12：55
	発	8：40		発	13：05
おぼれ岩	着	8：20	天狗岩	着	13：25
	発			発	
キレット	着	9：50	藤内小屋	着	14：55
	発			発	15：10
御在所岳	着	11：30	裏道登山口	着	14：40
	発	12：10		発	
国見峠	着	12：35	希望荘	着	16：00
	発			発	17：00

山行報告

夏山トレーニングの三回目・御在所、昨年と同じコースにした。私の体調の都合もあり、山らしい山としては久しぶりの CL。今回も総員 26 名参加。一時キャンセル待ちが出る程の人気。このコースは岩場ありキレットありの変化にとんだコース。下山路も結構急勾配の所や、木々の根っこや岩が露わになった所もある。歩行時間も休憩昼食時間を含めて 6 時間。トレーニング・体調調整などに適当なコースだと思う。

午前中、山頂部はガスで曇っておりあまり付近の見晴らしも良くない。梅雨時特有の蒸し暑さで汗びっしょりの山行となる。山頂で昼食、付近はケーブルで来る家族連れの人も多く賑わう。午後からは天候も晴となり鈴鹿の山や、伊勢平野が良く見える。途中国見峠で M 氏がリタイヤー、園上、津田両氏に付き添って頂いて裏道を下山。我々は国見岳を折り返して国見尾根の縦走路・天狗岩などの岩の横を下山する。昨年は川原の岩中道を歩いたが、今回は小屋横の橋を渡って無事に藤内小屋に到着。少し道が違ったようだ。小屋では M 氏一行が待っていた。1 時間以上早く到着したらしい。小屋前の冷たい水で顔を洗って一息入れる。後は川沿いの道を 30 分歩いて裏道登山口へ無事下山。何時もの様に希望荘で入浴、汗を流して帰路に就く。梅雨終末期、当日の早朝富山県は大雨、帰宅した当晩は大阪が大雨、京田辺も昼には雨が降ったようだ。雨の隙間を縫っての山行。

ＳＬの若林さん、班長をして頂いた赤松さん・小川さん・坪田さん、またリタイヤーの M さんと同行して頂いた園上さん・津田さんご協力ありがとうございました。

ヒヤリ・ハットは　ありません

山岳感想文（御在所岳、7/20）

上田　昌宏

夏山登山（訓練第３回）御在所岳参加した、この山は岩峰が多く樹木の根っこ、スリップや
ひっかけ等の個所多く緊張の連続であった。又、梯子、鎖等、設置多く見られた。
今回の訓練は基礎的歩行術の向上が目的だと思う。岩場踏破３点確保歩行、鎖、ロープ操作
等たくさん学習した。
反省点もある。岩場踏破上り降りステッキいらないザックに格納。３点確保障害になる。
ルート迂回するチームもあるが、訓練目的考え再考すべき、いずれにしても事前にリーダー
諸氏の打ち合わせを十分に行うようお願いする。
梅雨の最中、雨も降らず 26 名の参加者で楽しい登山であった。８月上旬本番登山大いに期
待し、楽しみ、何かをみつけたい。今回の企画実行された幹事の皆様、運行バススタッフ様
有難う。これからも宜しくご指導ください。

2014 年　第 3 回　夏山トレーニング（御在所岳）を終えて

坂部　武司

60 過ぎから体調の変化に加え、いろんな意味での人生の大きな節目を迎え、体力に反して何をしても楽しめない無気力な時期がしばらく続き、1 年半も休会をしておりましたが、一つの壁を乗り越えて気持ちも切り替わり、活動の再開に御在所岳を、2 つの理由から選択しました。
第一は、昨年夏 40 年来の友人を癌で失った事と加齢？による体調の大きな曲がり角を迎える中、今進むに躊躇し残された時間を無駄にしない為にも、悔いを残さず人生を楽しむ
第二は、この地は社会人として入社早々慰安旅行の幹事を務めた思い出の場所でもあり、人生の 3 回目の区切りのスタートとして・・・。

以上の思いでエントリしましたが、補欠 4 番。一度は諦めておりましたが、滑り込みで繰り上げ当選を受けて、急遽前々日、交野山に足慣らしに登り、万全で臨んだ挑戦も、無事完歩はしたものの、急な上り下りの連続に膝まわりの筋肉に痛みが発生し、特に下りでは、踏ん張りが効かず、工程に遅れず、またけがもせずに下山するのがやっとの状態。
さらに、翌日には過去経験の無い腰痛にも見舞われ、朝起き上がるのに一苦労。
時間は今まで通りに過ぎても、体力の衰えはそれより早く待ってくれない様です。

関西でもかなり厳しく険しい山との評判通りに悪戦苦闘の連続に体力の限界を感じながらも、関西有数の難コースの山に、御在所岳の持つ独特の自然の景観と立ち込める雲の中へ消えていくケーブルカーの幻想的な素晴らしい景色を楽しみながら、久々の山友会活動を満喫をさせて頂きました。
今回の登山で、見つけたお地蔵さん、ちよっと首を傾げて私の選択に疑問を投げ掛けているかの様に見えますが、残された時間、体の動く限り、好きな旅行や山登りなどに全力投球！と改めて決意が出来ました。